

ショートレポートから学ぼう

08

目標

- ・ チームでショートレポートをお互いに評価しあう
- ・ 学習用参考図書を読む分担を話し合う

チーム学習

08-1



Web 公開

チームでショートレポートをお互いに評価しあう

チームメンバーに自分のショートレポートを評価してもらったり、チームメンバーのショートレポートを評価しましょう。それぞれのメンバーがまとめたショートレポートを評価し合いながら、チームで構想した学校についてお互いの認識にどのようなズレがあるかを確認します。また、個人の主張が書かれている場合は、もっとよい構想にするための手がかりにしたり、自分の主張をまとめるときの参考にすることができます。自分のレポートをよくしていくために、チームメンバーのレポートから学び、真心を込めてコメントしましょう。(→このショートレポートは**最終レポートの第1章**になります)

★メンバーのレポートを読んだら掲示板にコメントを記入しましょう。それぞれのメンバーから評価してもらった内容を「私のレポートを評価してください」にまとめて一覧できるようにしましょう

チーム学習

個人学習

読む

08-2

個人テーマを決めるための準備をする

教育の長い歴史の中で、多くの先人たちが「子どもの学び」についてさまざまな原理を開拓してきました(西之園晴夫・宮寺晃夫編「教育の方法と技術」第1章 参照)。みなさんも、未来の学校を構想する中で学校教育の問題点や評価する視点についてチームメンバーと調べたり考えたりしてきました。これからは、一人ひとりが今までよりもさらに具体的に「子どもの学び」をどのように捉え、そしてどのような方法で子どもに関わるのかを考えていきます。

チームで意見を交わしやすくするために、「国語の学力」と「算数・数学の学力」という具体的な教科に限定して考えてみましょう^{※1}。チームで共有するテーマ「(価値観・能力・学力・学習スタイルなどが)多様な学習者一人ひとりが主体的に(自分から)学び、学力を高めるために(対象教科：国語、算数・数学)」を設定します。後半の学習では、このテーマに対して自分ならどのように取り組むかを考えていきます。(その時に国語か算数・数学いずれかを選択します)

今週は、具体的なデータを使用して国語と算数・数学の学力の実態について説明されている、学習用参考図書をチームで分担して読む打ち合わせをします。

※1 状況によって対象教科を変更することがあり、別途に指示します。

★注意★

学習の進め方については08-2をよく読んで進めてください。

個人学習

学習用参考図書を分担して熟読し、担当した部分について次Unitに他のメンバーに報告できるように準備する

コラム 個性と我(が)とはどのように違うか

教育では個性豊かな子どもに育てることが言われますが、しばしば我を伸ばしているだけの授業に直面することがあります。

あの人は個性が豊かだといえばほめ言葉ですが、
あの人は我が強いといえば敬遠する言葉です。

考える それではあなたは個性と我との違いをどのように説明しますか。

個性とは：

我とは：

私のレポートを評価してください

回し読み



●● 自分のレポートについて「よかった点」と「改善を要する点」を1点ずつ掲示板にコメントしてもらいます。以下にコメントされた内容をまとめましょう。

チーム番号() 月 日() レポート執筆者()

評価者氏名()

「良かった、ぜひ参考にしたい」という点：

「こうしたらもっといいよ」と感じた点：

評価者氏名()

「良かった、ぜひ参考にしたい」という点：

「こうしたらもっといいよ」と感じた点：

評価者氏名()

「良かった、ぜひ参考にしたい」という点：

「こうしたらもっといいよ」と感じた点：

評価者氏名()

「良かった、ぜひ参考にしたい」という点：

「こうしたらもっといいよ」と感じた点：

評価者氏名()

「良かった、ぜひ参考にしたい」という点：

「こうしたらもっといいよ」と感じた点：

多様な学習者一人ひとりの学力を 高めるために 一 国語, 算数・数学※1

●● 後半の学習の進め方を説明しています



後半の学習では主に「多様な学習者の主体的な学び」をどのように捉え、どのように指導するのかを考えます。そのために、チーム全体で「(価値観, 能力, 学力, 学習スタイルなどが)多様な学習者一人ひとりが主体的に学び, 学力を高めるために(対象教科: 国語もしくは算数・数学)」という共通テーマを持ち、それをさらに具体的なサブテーマ(具体的な指導方法)に発展させて実施可能な形にまとめ、最終レポートの一部として提出します。

学習を次の4ステップで進めていきましょう。

ステップ 1 学習用参考図書を分担して読んで報告しあう

Unit08・Unit09

指導者が指定した学習用参考図書を分担して読みます。分担した部分を読み、要約した内容を掲示板に書き込んでメンバーに説明します。

①Unit08 で分担を決める

どのように分担して読むか決めてください。

②担当箇所を他のメンバーに報告するためにまとめる

③Unit09 でそれぞれが読んだ内容を報告して全体を理解する。

ステップ 2 学習用参考図書から実態をふまえ、具体的な学習指導方法を提案する

Unit09・Unit10

シ
ョ
ー
ト
レ
ポ
ー
ト
2

①「多様な学習者の主体的な学びを実現する授業」とは、ひとことで「~のようだ」(メタファー)と言うならどのようなものだと表現することができるかを考える。

②国語, 算数・数学のいずれかを選択してサブテーマを明確にする

例: 「中学・国語で見られる語彙力の低下に対するNIE※2の取り組み」

対象者(誰に)

具体的な学力(何を)

方法(どのように)

③提案したい具体的な学習指導を MACETO モデル(資料 09-2)に沿って細分化して詳しく説明する。

④Unit09 の宿題で①~③をショートレポートにまとめて Unit10 にチーム内で輪読する。

★注意★ Unit10 に掲示板でショートレポート 2 を公開してください。

※1 教科は状況によって変更することもあります。

※2 NIE(ニアイー)…Newspaper In Education(教育に新聞を)の略。新聞を教材化して学習を進める方法でその活用方法は多様。新聞社からの積極的な協力もある。総合的な学習の時間などでよく使われている。

ステップ 3 第2回チーム発表：「多様な学習者の国語，算数・数学の学力低下に対する本校（←構想した学校）の方針」を保護者（他のチーム）に説明する

Unit10・Unit11・Unit12→集合学習③

チームで構想した学校で行われる授業参観で，事前に保護者懇談会で授業を説明するという設定。

- ①Unit10のショートレポートでそれぞれの提案した考えをベースとして，チーム発表した学校で取り組む「多様な学習者の国語，算数・数学の学力低下に対する本校の方針」をUnit11で構想する。（1単元構想して，そのうちの1時間を具体的に説明する。）
- ②Unit11ではチーム内で「説明担当班」と「提出文書（チームレポート）作成班」とに分かれる。
 - 説明担当班**・・・発表用原稿や説明用提示物を作成して保護者懇談会で発表する
 - 提出文書作成班**・・・A4用紙2枚以上でチームレポートをまとめて学習支援システムに提出する（個人で最終レポートをまとめる際にチームレポートを個人で修正して利用すればよい）
- ③Unit12に学団ごとで保護者懇談会を行う。

※Unit11・12は集合学習③で実施

ステップ 4 最終レポートの第2章としてステップ3までを見直してまとめる

Unit12～

- ①第2回目のチーム発表で得られた評価をもとにしてステップ3までの学習を修正し，最終レポートの第2章としてまとめる。
- ②各自で第3章を作成して，既に執筆した第1章と第2章と合体させて最終レポートとして学習支援システムに提出する。

補足説明：

最終レポート第3章

チームで構想した学校で取り組む**学習指導を改善するための方法と学習者を評価する方法**の具体案を各自で考える。チームメンバーへの助言や資料提供を求めてもよい。

第2章は最終レポートの中でも一番重要な位置を占めているので，早めに取り組んで他のメンバーと読みあうなどして何度も修正しながら良いものにしていきましょう。

- ※3 ショートレポートと最終レポートの関係は巻頭「学習の流れ」や資料12-3で示しています。
- ※4 第2章を個人のショートレポートをベースにまとめるか，チームで考えた構想を柱に個人で補足する形でまとめるかどうかについては，資料12-5で説明しています。確認してください。